

この大節をどう悟れば

【座談会】 新型コロナウイルス感染拡大を受け

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、緊急事態宣言が全国に発出され、教内の活動にも延期や中止が相次ぐなど、大きな影響が出ている。この大節に対して、ようぼくはどのように向き合っていけばよいのだろうか。今回は特別企画として、安藤吉人氏、板山公司理事、安藤正二郎役員との3氏に聞いた。



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

司会 (石井富男) 広報部長

天理時報に掲載されたお言葉の中で、真柱様は、過去の本教に対する政府からの干渉、圧迫を回顧され、「私たちといえば、歴史的に知識があっても、そうした制限下で道を通る経験をしたことはない」、「だから一度、似たような経験を、今回ちよつとでもさせたらということではないかと、ふと思った」と述べられました。安藤正二郎氏 真柱様のお言葉の通り、行政から何かしらの制約を受けるといのは、本教の歴史では決して初めてではなく、内務省訓令、革新指令といった干渉がありました。当時の先人たちが味わった苦勞は、



今現在、私たちが受けている行事の自粛や活動の制限などは比べ物にならないくらい大変なものでした。そのことを思えば、私は今の状況がどれほどありがたいことかと感じます。安藤吉人氏 いまの状況は一種の「戦争状態」であると話す専門家もいるほどですが、実際の戦時中の教会生活はどのようなものだったのでしょうか。板山公司氏 戦時中のことを知る人は、今では少なくなりました。私自身も小さ

活動目標
喜びの旬
おたすけの日々
楽しみの道



かったものでそれほど詳しくは分かりませんが、とにかく早く戦争が終わればいいのにと思っていたことを覚えていてます。そういった中でも、大教会の先人たちは日々おたすけに励んでおられたようです。吉人 どんな状況の中でも、苦勞を楽しみながら、教祖の教えを芯にして心を倒さず、信仰していたんですね。板山 私は、今回の大節と六代会長就任奉告祭とは、合図立て合っているように思うのです。私たちの信仰の考え方、信仰の伝え方に注意を促してくださいっていつも感じます。本愛のようぼくは親神様から大変な

(2面に続く)

5月のこよみ
入社祭
1日 午前10時
祭典終了後、教会長連絡会
よふき会例会
2日 午前10時
月次祭
13日 午前10時
布教実修所
14日 午前9時30分
本部月次祭
26日 午前9時

婦人会本愛支部
総会の中止について
新型コロナウイルスの感染拡大防止などに鑑み、婦人会本愛支部第92回総会は中止と致します。
何卒ご理解を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご期待を頂き、親神様が背中を強く押してくださいって、いるように思えてなりませぬ。日々の信仰の姿勢を見直す機会を与えてくださっている。行事が中止になっていることから、今は信仰の根本に立ち返って、教祖の教えの本質、が何であるかを考え直してほしいという親神様の思召を感じます。

吉人 昔を知る先生から聞いた話ですが、戦前から戦後にかけては肺結核の方が多く、療養所に隔離される患者を教会が預かっていたということを知って驚きました。

ただ、現代で新型コロナウイルスの患者を教会で預かるなんてことは絶対にで



きませんよね。当時の先人の苦勞に敬意を払いつつ、現代の私たちはどうすればよいのか。昔の方法そのままではいけないでしょうし、考え方も変えていかないと、時代に取り残されてしまうと感じます。

正二郎 本愛の布教の第一線を歩んでこられた先生方にも、肺結核で入信されたという方がおられますね。

吉人 初代会長様のお諭しを拝読すると、肺炎は「金銭欲の焦り、家族意見合わず」と示されています。経済的な余裕がないことが焦りとなって、家族の関係まで崩れていく。私の知る限りでも当てはまる家庭はありますし、そうした視点からもこの大節から考えられることがあります。

本質を求めるチャンス

司会 個人の感覚ですが、行事がなくなっただけで、丹精のあり方を反省し



ました。ようぼく・信者の丹精をおぢばへ頼りすぎていた。おぢばに送り出し、預けるだけで、教会長として丹精しているつもりになっていたように思うのです。

正二郎 行事の中止ということを通して、親神様は「今は集まらなくてもよい」と仰っているように私は感じます。集まるのではなく、今はもつと自分の教会や身近な場所で、一人ひとりのようぼく・信者、子供たち

を丹精してほしいという思召なのではないでしょうか。本来、教会に人が集まるといのは、たすけられた人々の感謝の心からだったはずなのに「総会だから」とにかく教会へ」と、集まるといふことの意味をおざりにしていたと、自身を振り返って反省します。

板山 私の青年会時代を思い返してみると、形の上だけでも盛大にして、親神様にお喜びいただきたいという思いが強かったと思います。それも大切だったのでしようが、どんな集まりであっても、会の指針や目指す目標という部分をしっかりと伝えることのほうが重要なかもしれません。本質の部分を追い求める努力が必要なのではないでしょうか。

正二郎 「本質」について具体的に考えるならば、「参加者数」という数字に囚われて中身を疎かにしていた

かもしれません。おたすけの結果として、行事の参加人数が増えたということならばそれは非常に尊いけれども、単に人数だけで行事の成功度を測るといのは、これからはなおさら時代にそぐわなくなっていくでしょうね。

吉人 私はこの大節は「チャンス」だと思っています。形ではなく先生方の仰る「本質」を追い求めていく考え方へ大幅にシフトチェンジできるのが、いまだと思うのです。過去の例や慣習によってなかなか変えられなかった物事も、今回の新型コロナウイルスという危機で社会全体が変わろうとしています。

ただ悲観したり、怯えたりするだけではなく、「新しい時代の幕開け」という意味で、この大節を捉えていけばよいのではないかと思います。

(次号へ続く)

教理随想

言わん言えんの理を探る



毎日の生活の中で、周囲に起きてくる出来事の中に親神様の思召を悟ろうとする姿勢は、信仰者として大切な心使いであります。一つの例として、水にまつわる話を考えてみましょう。

以前、大教会でこんな出来事がありました。八月のある日、早朝から信者会館全館で水が出なくなるとい

う事態が発生しました。調べてみると、屋上の高架水槽へ水を送るポンプの故障が原因であることが分かりました。そこで応急処置として、敷地内にある市水直

結の蛇口からホースで高架水槽まで水を送って急場をしのいだため、完全な断水状態は一日足らずで済み、数日後にポンプの交換が行われて水道は復旧しました。人間の生活で絶対に必要な水。しかも真夏で最も水が欲しい時に給水の流れが滞るといふ事態。このことを通して親神様はどんなメッセージをくださったのでしょうか。

一つには水のご守護に対する感謝の心と、水を大切に使う心を望んでおられることはまちがいありません。しかしそれだけの悟りならば、どの企業でもどの組織でも考えつくことで、いわば一般常識の範囲であります。お道の信仰者ならばも

う一歩進んで、報恩という観点と十全の守護の教理から考える必要があります。つまり水への感謝だけでなく、水の恩に報いる心と行いが肝腎ということです。人間の体の約七割は水でできていて、猛暑の中でも体温が保たれるのは汗、すなわち水の循環が機能しているからです。このことからまず悟れるのは、今よりも人だすけの思いを強く念じて、他人のためにもっと汗を流す。あるいは地域の

ため社会のため、また教会のためにもっとひのきしんの汗をかく。これこそが水の恩に報いる実践であり、親神様が望まれる信仰の成人であります。次に大事なことは水の性

質を我が心に当てはめて考えることです。まず水は絶対に低い所へしか流れません。また水はどんな器に入れても柔軟に形を変えて器に収まります。さらに水は大地に潤いを与え、植物の成長を助け、拭き掃除をする時には一手に汚れを引き受ける。こうした性質の一つ一つを自分に当てはめてみて、そこから親神様の思いを思索し、心の切り換えを実践することが水の恩を知り、恩に報いる行動になるのです。

大教会で見せられることは、本愛につながるすべてのようばくに対する親神様からのメッセージです。その思召を深く悟り、親の思いにかなうように心の使い方を切り換えていけば、将来、水で苦勞することがなくなりま

ら、水の恩に報いようとする行いは、父親、夫、息子など男性に関わる問題で苦勞する状況から救っていただけです。そう思うと、あの日の断水という出来事は、ようばくが救かるための先道を教えてくださっているようにも思えます。今日までも水の恩に報いる道を歩んできましたが、明日からは尚一層、水に感謝し、雨に感謝し、水の恩に報いる心を強めて、悩み苦しむ人に寄り添うおたすけに汗をかき心定めが大切です。

先月には新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令され、現在でも終息の道筋は見えていません。こうした状況下にあって私たちようばくは、「十全の守護」の教理に照らし合わせて親神様の思召を深く求めながら、引き続き感染の終息と世の治まりを祈っておつとめをつとめていきま

【第 65 回】

親神様の思召を深く悟り
人だすけに更なる一歩を

■水への感謝と報恩

また水は「男の理」ですか

また水は「男の理」ですか

学 生 会

4月13日、学生会の委員長、副委員長が新たに任命された。

* * *

委員長

板山眞依子 (本濱松)

副委員長

渡邊 大喜 (本 築)

大池 萌香 (本尾愛)

修養科 一期講師

佐藤幸一郎氏 (本築)

が、修養科第945期の一期講師を務めた。

修養科 生 教養掛

第945期

1月 中村 誠 (本誠愛)

2月 出口順一郎 (本道橋)

3月 吉田 清和 (本鈴鹿)

右の各氏が教養掛を務めた。

修養科第945期修了者

本一心

大倉 和真

以上1名

お詫びと訂正

4月号6頁掲載の「2月の初席者」において、誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

(誤) 藤森亮太

↓ (正)

森藤亮太

教務部

陽気ぐらしのキーワード



感謝
慎み
たすけあい



本愛大教会
公式ホームページ開設!



<https://hon-ai.org>

大教会からのお知らせ
沿革、大教会へのアクセス
本愛誌バックナンバーのダウンロード

大 教 会 日 誌

令和2年3月25日～令和2年4月24日

3月

25日 修養科志願者面接 (於・本愛詰所)

26日 本部月次祭

31日 常任役員会議◇役員会議

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭 主・大教会長 扨者・筑紫英一、大倉光晴

指図方・板山公司 賛者・佐藤正二、杉下和平

◇大教会長挨拶

4月

1日 入社祭

祭 主・大教会長 扨者・大橋 進、山神茂彦

指図方・出口道男 賛者・佐藤幸一郎、久保眞樹

◇教会長連絡会

17日 こども食堂MOGU

天理カレーや各所からの寄付物品を38名に配布

18日 教祖誕生祭

2日 よふき会例会

24日 おはなし会